

生活との架け橋

長崎大学医学部保健学科作業療法学専攻学生
佐賀里 昭

【目的】

急性期作業療法の介入道具として、救急病棟のクライアントを対象として作成した。現在はベッドサイドにて高次脳機能の廃用予防、早期離床を目指し使用している。

時間と生活の関係性に対して意識を促す
作業を通して能動的な活動を促す
人との交流を促す

【効果】

ニュースの音読、書き取りを行うことで、前頭葉を中心とした部位の活性化を図り、マグネットパズルで、頭頂葉を中心とした部位の活性化を図る。また季節感のある紙細工から Activity への導入、日付や曜日を確認しながら OTR や家族と会話をを行い、地域、社会に触れることもできる。セッティングしている際はスタッフの声掛けが増え、精神的にも良い効果を与えている印象を受ける。さらに副次的な効果としては、この道具を通し、作業療法の視点などをスタッフと共有する機会が増え、人的環境に介入ができる。

【使用例】

まずはニュースの音読、書き取りを行う。会話を通して季節感のある紙細工にふれ Activity に誘導する。マグネットパズルの見本は日付である必要はなく、自由に設定可能であり、クライアントの状況に応じて課題を作成できる。この道具の自由度は高く、さまざまなアイデアに対応することができる。また持ち運びが可能であり場所を選ばずに作業を提供できる。

【材料・費用】

ホワイトボード 300×2 個

マグネット 18 個入り 100×10 個

カラーテープ 100×1 個

総額 約 2000 円程度

【製作方法】

細くカットしたカラーテープでマスを作成する
両側に紐をはる
季節の紙細工を貼り付ける
ニュースを記載する

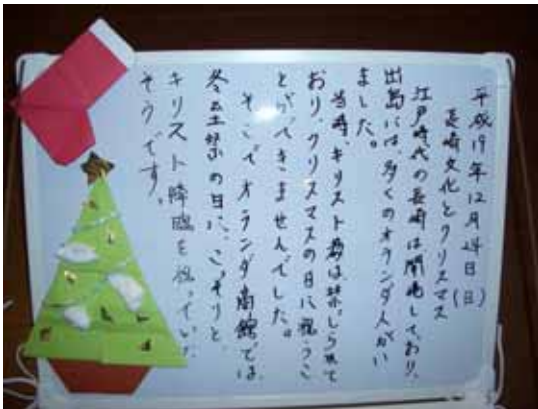


生活との架け橋

急性期作業療法的手段として使用しています。持ち運びが可能なので、生活感がない集中治療室などで、特に力を発揮します。人、時間、作業、生活、社会などの関係性に介入するための道具です。



見本を見ながら、マグネットパズル作業を行っているところです。自主訓練も可能であり、作業時に、看護師などが話しかけてくることも多いようです。



最新ニュースを読み、書き取り、できれば話を広げクライアントの家族や老人会などの話をしてもらおう。季節感のある紙細工にふれることで、作業に対する関心や意欲を引き出し Activity へ誘導することもできる。



上下のマスは同数であり、見本を見ながらマグネットパズルを行います。また、見本の変更は可能であり、クライアントの状態によって課題の設定が可能です。

(意識レベルが低下した方への使用例)

セラピストが異なる2つの果物の模様をマグネットで作成し、指示した側をクライアントが pointing します。